

その痛みになんたな選択肢

APS療法のご案内

当院で治療を行えます

これまでの変形性ひざ関節症の治療

これまでの変形性ひざ関節症の治療では、大きく分けると軽度なら運動療法や薬物療法による保存療法、重度なら手術療法が行われています。軽度であれば運動療法や減量、消炎鎮痛薬（内服薬・貼付薬）で様子を見ることができですが、その後病気が進行してくると、消炎鎮痛薬に加えて、ひざ関節内にヒアルロン酸を注射して痛みを和らげる治療がよく行われます。さらに病気が進行した場合は、手術療法となります。手術療法としては、人工関節を用いたものが一般的となります。上記の治療法に加え、**新たな選択肢として近年APS療法が注目されています。**



APS療法と治療の流れ

変形性ひざ関節症の関節内では、軟骨の破壊成分を作り出す悪いタンパク質の働きが活発になっていますが、私達の体の中にはこの働きを抑える良いタンパク質も存在しています。APSとは患者さんご自身の血液から炎症を抑える良いタンパク質と軟骨の健康を守る成長因子を抽出し、高濃度に加工したものです。これを関節内に注射し、炎症バランスを改善することで痛みを軽くし、軟骨の変性や破壊を抑えようとする治療法です。

STEP1

STEP2

STEP3

来院当日 1時間ほどで提供可能です

採血

ご自身の血液を
約5 5 ml採血

加工

APSを抽出
濃縮加工

注射

関節内にAPSを注入

APS療法の よくあるご質問

Q. APS療法の痛みの改善効果はどれくらいで現れて、どのくらい効果が続きますか？

徐々に効果が現れ、**2.3ヶ月頃から効果を発揮し1年程度持続します。**
長い方だと、**2.3年効果が続く事もあります。**

Q. APS療法は安全ですか？

**ご自身の血液成分を用いるので、拒否反応もない為、安全性が高く、
身体への負担が少ない治療法です。**

Q. ひざを切開する必要がありますか？

ひざの切開は必要ありません。

**ご自身の血液成分を加工し、ひざ関節に注射するだけなので、
ひざを切開する必要がなく、入院不要で来院当日に治療が可能です。**

Q. 高齢ですが、治療を受けることはできますか？

受けることができます

からだに負担の少ない治療なので、高齢の方でも治療可能です。
ただし、関節の破壊が進んでいるような重度の方は手術が適している場合もありますので、医師とよく相談することが大切です。